

(司会: 古川 元久 宇宙開発担当大臣)

宇宙開発戦略本部長である野田総理大臣から冒頭次のように挨拶があった。

はやぶさが持ち帰ったカプセルの中には微粒子だけではなく
勇気と希望が詰まっている¹。日本は独自の力でロケットや衛星
を飛ばすことができるし、射場も持ち、国際協力を通じて宇宙飛
行士の養成もしてきた。その意味で潜在力を持つ国²である。宇
宙の様々な未解明の部分の解明や、地球の息遣いを一番感じ
ることのできる国になる可能性を持っている。そうした意味からも、
準天頂衛星については本日の議論を踏まえて進めてほしい³。ま
た、宇宙分野には様々な役所が関わっていたが、これをまとめて
メリハリのついた戦略的推進のための体制をつくることは極めて

¹ 「政府は宇宙の活動に関心を持ち、其の推進を支援する。」と云うメッセージにはなっているが、余りに詩的・観念的であり、政策として打ち出すにはもっと現実的な狙いの説明も必要だろう。

² 「潜在力」に主格が明確でない。日本に敵意を感じる国は、「侵略戦争を起こせるだけの潜在力」と解釈するだろう。まあ、其れも良いのではあるが、「世界の一流国としての実績を残して来た。」とでも言う方が良いのではないだろうか。

³ 準天頂プロジェクトを推進したいと云う意図は表明頂いたのだが、「そうした意味から」と繋げたものの論理的な繋がりが無い。最初は宇宙科学、次は地球観測、準天頂は通信と測位である。其れより、「静止軌道の飽和が見えている中で、新たな宇宙資源である準天頂軌道に関し、其の開発を先行して世界を先導する事を目指す。」とすれば政治的な意図も明確ではないか。其処までは言えないので、何だか解らない表現を選ばれたのか。

肝要である⁴。各閣僚のご協力をお願いします。

石田内閣府副大臣より、資料1「实用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方(案)」及び資料2「宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築について(案)」について説明が行われた。

関係閣僚からの主な発言は以下のとおり。

- 中川文部科学大臣より、实用準天頂衛星システム事業については、現在実証実験が行われている「みちびき」の成果が適切に活かされるよう協力してまいりたい⁵旨発言があった。また、宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築に

⁴ 「宇宙」と銘打てば予算確保が容易になる訳でもない。様々な役所が自らの責務の執行に宇宙空間の利用が有用だと考えるから関わる様になって来たのではないか。其の為に責任の所在が不明確にならない限り、好ましい傾向だと言えるのではないか。若し其処に問題を感じる者が居るとしたら、其れは利用各省に居る者で、宇宙に設置される機能部分を担当する文科省とJAXAに自分達の要望が届かないと云うものだと思われる。「メリハリの利いた戦略的推進」は好ましいが、其れは各省庁の要望を総合的に判断して宇宙に設置される機能部分の緩急順序を判断する部分であって、決められた計画を推進する実施体制を改革する必要はない様に思える。戦略本部が設置されて問題の主要部分は解決に向かっており、更なる体制検討は不要だと思われる。

⁵ 技術実証の成果が実用に利用されない事は有り得ない事なので、敢えて言及する必要のない事である。其れを敢えて行う意図は、其の段階に於いても一定の役割を担えるので、つんぼ様敷に追いやらないで欲しいと云う要望に聞こえる人も居るだろう。

あたっては、科学技術政策全体の戦略性の強化の議論とも連携⁶しつつ、中立公正で実効的な体制となることが重要と考えており、そのような視点に立って積極的に議論に参画してまいりたい旨発言があった。さらに、文部科学省としては、関係府省と連携しつつ、技術と人材育成の面から宇宙開発利用全体を支えていく所存⁷である旨発言があった。

- 平岡法務大臣より、資料1中「アジア太平洋地域への貢献と我が国プレゼンスの向上」及び「日米協力の強化」の内容について質問⁸があった。これに対し、山川宇宙開発戦略本部事務局長より、準天頂衛星の軌道にはアジア太平洋地域

⁶ 科学技術の進展は小さな前進の集積であり、定式は無いものの技術習得の手順が大切である。手順を誤ると投入資金ばかりが膨れ上がり、満足な成果が得られない事になる。技術発展シナリオを検討する役割は文部科学省が担うものであるから、当然その力に期待する。又、宇宙に衛星を運ぶ部分と宇宙に設置する機能部分(宇宙機)の開発は、文部科学省と JAXA が担当する事が続けば良いと思われる。今迄の実績が不十分であると責められ、それでも役割を外されない様に願って居る発言とも感じられるが、そんな事はないと自信を持って構わないと思う。

⁷ 技術と人材は日本の他の所には無いものを持っている。其れを活用して「支えて行く」では情けない。牽引して行って欲しい。唯、技術開発と人材育成の戦略的判断は、戦略本部が行う事になったので、其の方針に従うのである。

⁸ 議事録が要約され過ぎて、どんな質問だったか分からないが、小職だったら「プレゼンスの向上」を必要とする理由、プレゼンスを向上させた時に得たいものは何かを質問したい。

も含まれ日本と同様のサービスを提供でき、また、米国のGPSの補完補強という意味での協力が可能⁹である旨回答した。

- 細野環境大臣より、宇宙基本法の起草者の一人として、このような結論を出して頂き感謝する旨発言があった。また、宇宙分野のこれまでの問題点は、戦略性が希薄で、総花的となっていた¹⁰ことにあり、司令塔機能を確立し、各省は司令塔の方針に沿って取り組んでほしい旨発言があった。さらに、政権交代後GXロケット開発を中止したこともあり、メリハリをつけることを考えれば、準天頂衛星システムについてはやるべき¹¹で、4機体制は中途半端、7機体制が不可欠であると考えている旨発言があった。

⁹ GPS の補完補強で米国は得るものは無いと思われる。日米協力ではなく、米国が一方的に日本を支援する構図ではないか。

¹⁰ 戦略が明示されなかった事については同感であるが、歴代の指導者が適切に判断を重ねて来たのではないかと思われる。そうでなければ此れだけ少ない資金投入で、此れだけ宇宙先進諸国と比肩される成果を得られた筈がない。又、総花的であったと云う評価には賛同しかねる。そうだとすればもっと無駄に資金が浪費されたと思う。

¹¹ GX 計画を中止した事と、準天頂衛星の推進を加速する事とは全く無縁で、どうして並べて述べるのか意図が分からない。GX 計画は少々無理な処が多かったが、今の準天頂衛星の計画の進め方も少々早過ぎる推進の様にも感じられる。準天頂衛星計画もGX 計画と同じ様に、計画中止のリスクが大きいと云う事なら類似点と理解できる。然し、其れを此処で発言する筈はない。

- 蓮舫内閣府特命担当大臣より、独立行政法人や内閣府のあり方については精査しており、次期通常国会に提案¹²したいと考えており、宇宙政策についても歩調を合わせて検討いきたい旨発言があった。
- 玄葉外務大臣より、準天頂衛星に関する予算はいつからか、補正は使うのかとの質問があった。これに対し、安住財務大臣より、3次補正での調査費から始める旨発言があった。
- 自見内閣府特命担当大臣より、宇宙開発への投資については、例えば、40万人の命を救ったと言われる人工透析にはNASAの技術がかかわっており、国民の実際の利益につながるものであることなど、分かりやすく説明していくべき¹³旨発言があった。

最後に、「実用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方(案)」及び「宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築について(案)」を決定した¹⁴。

その際、古川宇宙開発担当大臣より、今回の決定を受け、今後、実用準天頂衛星システム事業の推進と、実効性のある宇宙開発利用体制の構築に向け、関係閣僚に御協力をお願いするとの発言があった。

以上

¹² 「独立行政法人」という言葉を選ばれたが、JAXA 以外に意味するものは無さそうである。「JAXA の管轄を文科省から内閣府に移行する。」と同義だと考えられる。そうすると、省庁改編の時に科学技術庁を文部省と統合した事自体が誤りだったと言う事にはならないのか。又、一方で中川文科大臣は、「科学技術政策全体の議論とも連携」と発言なさっているが、宇宙(=JAXA)を内閣府に移管しても、科学技術政策全体の管轄を残し、其の立場から宇宙の計画を制御しようと言う意図なのだろうか。

¹³ 結果として其の様な功績があった事は結構であるが、意図しなかった成果である。「意図しなかった成果が国民の実利に繋がり、其れを紹介する事で国民が理解し易くなる。」と言う論理手順は頂けない。意図して狙った成果を説明すべきである。

¹⁴ 沢山コメントを記載して来たが、此処まで上がって来た計画は、其の通りに承認されるよう準備が為されたものであり、12 分間の審議で修正される訳もない。コメントはごまめの歯軋りにもならないが、黙って居れば「賛同」を意思表示したも同じなので、無駄口を叩かせて頂いた。